

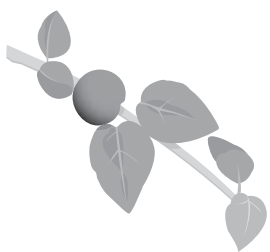


季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第九八号）

小寒 しょうかん

一月六日



## 千両、万両、有り通し

新年あけまして、おめでとうございます。

お正月の縁起物の中で、植物にもお目出度いとされるものがあります。秋から冬にかけて赤く熟する小粒の実をつけた植物で、千両や万両が代表格です。おかげ横丁の伊勢路栽苑へ行くと、赤い実をつけた植物が華やかにお正月を彩っていました。千両、万両は知っていましたが、それ以外にも縁起の良い植物を見つけました。

「千両、万両、有り通し」は、年中、千両、万両で大金が有り通しと縁起をかついだものですが、千両はセンリョウ科のクササンゴ、万両はヤブタチバナのこと。センリョウよりたくさん実がつくことからヤブタチバナに万両の名が付いたといわれています。そして「有り通し」が実在する植物だったとは意外でした。ありどおしは蟻通しと書き、アカネ科で高さ六十センチほど。一両とも呼ばれます。葉の付け根から出ているトゲが蟻をも刺し通すというので命名されました。

また千両、万両のように園芸種として知られていませんが、百両、十両もあります。百両は万両と同じヤブコウジ科のカラタチバナ。江戸時代はタチバナは非常に高価で、百両以下では手に入らなかったため、「百万両」と呼ばれていたとか。十両はヤブコウジで、樹林の下に群生する三十センチほどの小型植物です。

ちなみに江戸時代中期の一両は現代に換算すると、米価を基準にして約四万円になるそうです（日本銀行金融研究所貨幣博物館より）。この相場に比べて、縁起物の植物はずい分とお値打ち。夢を買うべく、一度揃えてみてはいかがでしょう。

文 千種清美

